JMA
登山月報　第554号　平成27年５月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

第 53 回海外登山技術研究会 報告 ……2
ＪＭＡ日本ユース選手権ミレーカップ 2015 ……4
韓国、江原道での山岳スキー競技・アジアカップ第1戦大会……5
新連載「山の日」制定記念―ふるさとの山に登ろう―……6
第 78 回 Mountain World ……7
すぐそこにある遭難事故 ……8
平成 26 年度 大山・氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告 ……9
トピックス、新刊図書紹介 ……10
2015 年春・ＵＩＡＡ理事会報告……11
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 ……13

No.554

第53回海外登山技術研究会 報告

３月７日（土）８日（日）の両日に亘り、第53回海外登山技術研究会が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。この研究会は海外登山の振興を目的にしているもので、今回は両日で総勢72名の参加があった。

７日午後から始まった研究会は、まず昨年度の海外登山奨励金交付隊である２隊を含む３隊より登山報告をしていただいた。

アラスカのルース氷河上に38日間滞在して４つの新ルート登攀をしたチームＷＡＳＡＢＩ隊からは和田淳二氏に話をしていただいた。登攀中にすぐ横にある大きな雪庇が落ちたことなど迫力ある登攀中の話も面白かったが、長いＢＣ生活をいかに快適に楽しむか、そして自分たちで登れそうなラインを気負わずに楽しむ、という登山の姿勢が印象的であった。この登攀はこうした遠征スタイルも評価されて2014年のピオレドールアジアを受賞している。

Ｋ７バダルピークを新ルートから初登頂したギリギリボーイズ隊からは、長門敬明氏に来ていただいた。当初はＫ７西峰から主峰への縦走も視野に入れた計画だったが、この計画はその難しさに早々に断念。しかし、岩を登りたい、ピークには立ちたいという思いから、長いけれど快適なクライミングのできそうな今回の南東稜の登攀を行ったとのことであった。氏のこれまでの登攀歴を振り返りながらの話は、今の登山にたどり着いた流れがよく分かるものであった。先のアラスカ隊もそうだが、最近の若い遠征登山隊は皆、本当に登山を楽しんでいる様子が伝わってくる。

もう一隊の報告は、日本山岳会学生部女子によるムスタン・マンセイル峰（6242m）の初登頂報告で、井上由樹子氏と長谷川恵理氏に報告していただいた。こちらは海外登山が初めての学生による登山隊で、4000mを越えた時に記念写真を撮ったこととか初めてヤクを見た感動とかが新鮮に伝わってきて、自分にも同じ時期があったことを感慨深く感じた。行ってみたい、じゃ行っちゃえ、で始まった登山隊で失敗だらけではあったが、行くことでそれが分かって良かった、今度は自分の力で行きたい、との言葉がとても嬉しく感じた。

登山報告の後は、池田常道氏に2014年の海外登山全般を振り返りつつ、最近の海外登山の傾向や、これから狙い目となる山域などについて話していただいた。

その後、近藤和美国際委員より最近の海外登山事情について報告していただいた。海外登山に出掛ける際には、メールでもいいので各国の在外日本公館に登山届を出すように呼びかけをした。

翌８日の初めは特別講演として、中村保氏を講師にお招きし、昨秋の南チベット踏査の報告をしていただいた。ヤルン・ツァンポー南岸やブータン国境の山など、情報の少ない貴重な山々の写真をたくさん紹介していただいた。ただチベットはますます入域が難しくなっているようだ。

次は今回の特集で、「アルパインスタイル登攀の装備と食料」をテーマに企画した。まずは国内外で精力的な登攀をしている馬目弘仁氏に、登攀時の装備について、特に生活装備の考え方や工夫の実際について話

ネパール大地震のお見舞い

この度のネパール大地震で、甚大な被害を蒙られたネパール国民と被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

また、大変困難な状況の中で、救援活動に携わっている方々のご努力に深甚より感謝申し上げます。

私たち日本の山仲間は、皆様の安全を祈念しつつ、この困難な状況を一刻も早く改善する救援活動にできる限りの協力をしたいと考えております。

平成27年４月26日

公益社団法人 日本山岳協会　会長　**神 﨑 忠 男**

していただいた。昨年にピオレドールを受賞したキャシャール南ピラー登攀で使用した改造テントを持参していただき、その説明には多くの方が熱心に質問をしていた。その後、その改造テントの作成者でもありエスパーステントの開発に携わっているヘリテイジ社の野中玲樹氏に、装備の開発や改良に関して、メーカーの立場から話していただいた。装備の足りない部分は自分で工夫すること、そしてメーカーを揺り動かす熱意があれば、装備の改良や新開発につながるとの言葉が印象的だった。その後、馬目氏、野中氏にクライマーの谷口けい氏を交えて、アルパインスタイル登攀の装備と食料に関して、事前に集めたアンケートをもとに座談会を持った。アンケートは今年のウインタークライマーズミーティングに参加した現役クライマーから集めたもので、興味深い内容が多く、それらに関して数々の意見をいただいた。また、ご自身の装備についての考え方も披露していただいて終了した。

この研究会は50余年にわたって行われているもので、以前は海外を目指す人の交流と情報交換の場として機能してきた。しかし、その役割が薄れてきた近年では、日本人の海外登山の報告を中心に、これから海外登山を目指す人に向けた情報提供や勉強会の意味合いを持たせたいと考えて運営している。その意味では、今回は登山報告も特集テーマもそれに沿った内容で、充実した講師陣を揃えられたと思っている。また、参加者数も、まだまだ足りないとは思っているが、最近と比べれば集まった方だと思う。各国の推薦状制度がなくなって以来、国際委員会の事業は、これまであった研究会事業を惰性で行っている状態になっていたと思う。これからは公益法人としてやるべきこと、求められていることを考えながら、実のある事業を考えていきたいと思っている。

（記　国際委員会委員長　澤田　実）

ネパール大地震救援募金

4月25日午前11時55分ごろ、カトマンズから北西約80km、ヒマルチュリ峰南方のゴルカ郡内・ラムジュンを震央として、マグニチュード7.9の地震が発生し、首都カトマンズ盆地も激震に襲われました。

甚大な被害の状況とともに非常に多くの死傷者数が報道されております。

公益社団法人日本山岳協会は、ネパール国民と被災された多くの皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

本会は、本会を含む日本の主要山岳団体と緊急協議を行い、ネパールにご縁のある方々や団体の義援金を「ネパール大地震救援募金」として、心を一つにして募集し、ご寄附いただいた金額の全部がネパールの被災者に直接届くようにする手段を講じることで合意しました。

このため、郵便振替口座「ネパール大地震救援募金」を設け、そこに集めることにしましたが、ゆうちょ銀行の手続きの都合で、口座開設が5月下旬となります。そのため5月中は、下記の振込先への送金をお願いします。

2015年5月1日

日本山岳団体ネパール大地震救援募金委員会

公益社団法人 日本山岳協会　　公益社団法人 日本山岳会　　日本勤労者山岳連盟
公益社団法人 日本ガイド協会　　日本ヒマラヤ協会　　NPO法人 日本ヒマラヤン・アドベンチャートラスト

【連絡先】
公益社団法人 日本山岳協会
〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
電話　03-3481-2396 FAX 03-3481-2395
E-mail : info@jma-sangaku.or.jp
H.P : http://www.jma-sangaku.or.jp

〈ネパール大地震救援募金振込先〉

●みずほ銀行　渋谷支店　普通口座３３８２５０１
　口座名「公益社団法人日本山岳協会免税口」
●郵便局の郵便振替払込用紙を使われる場合は、
　口座記号番号：00110－5－546693、加入者名：公益社団法人日本山岳協会
　（※通信欄に「ネパール大地震救援募金」とお書き下さい。住所、氏名、電話番号もご記入願います。）

①募金は1口2千円です。
②第1次募金期間：平成27年5月1日～10月31日

JMA日本ユース選手権ミレーカップ2015

３月28、29日の２日間にわたり、昨年10月に二度目のＩＦＳＣワールドカップリード競技大会会場となった印西市松山下公園総合体育館において、ＪＭＡ日本ユース選手権ミレーカップ2015が開催された。男子130名、女子81名、計211名の選手が世界ユース選手権日本代表の座を争って熱戦を繰り広げた。

１日目の予選は女子全員と男子アンダーユースＢの108名が同一ルート、男子ジュニア、ユースＡ、ユースＢの103名が同一ルート各２本のフラッシング方式による競技を行った。チーフルートセッター伊藤剛史氏をはじめとする４人のセッターチームによるルートは、予選から、見た目てきにも内容的にも世界水準を意識して時間ギリギリまで練り上げられた高難度のルートで、女子グループの左壁ルート推定グレード13ｂを完登したのはユースＡの田嶋あいかただ一人、推定グレード12dの右壁ルートはアンダーユースＢの伊藤ふたばと森秋彩、ユースＢの風間慧美、ユースＡの田嶋あいか、ジュニアの野中生萌と義村萌の女子６名と男子アンダーユースＢの西田秀聖、高島悠吾、小島麟太郎の計９名が完登。男子グループでは､推定グレード13aの左壁ルートをユースＢ2名､ユースＡ11名､ジュニア９名の計22名、推定グレード13ｂの右壁ルートをユースＢ１名、ユースＡ９名、ジュニア７名の計17名が完登し、レベルの高さを見せつけた。

２日目は、左右の壁で男女に分かれて最初にアンダーユースＢ決勝、続いて別ルートで男女のジュニアとユースＡ決勝、最後にルートを手直しして男女ユースＢの決勝を行った。女子アンダーユースＢでは予選右壁ルートを共に完登した伊藤ふたばと森秋彩の二人が決勝も完登し、予選左壁ルートの成績が順位を分ける結果となって伊藤ふたばが初優勝。二人とも今後世界での活躍が大いに期待される逸材である。女子ジュニアでは野中生萌が義村萌を抑えて優勝、女子ユースは田嶋あいかが男女を通じて予選から唯一全完登の圧倒的な実力を見せて優勝し、女子ユースＢでは曽我綾乃が涙の初優勝。男子はアンダーユースＢで新星、西田秀聖が初優勝、ユースＢは田嶋瑞貴が安定した力を発揮して姉弟での優勝を達成し、ユースＡは緒方良行が体幹の強さを感じさせる切れのある登りで初優勝、国内トップレベルの実力者がそろったジュニアは、予選で２ルート共に完登した７人のうちの３人が決勝で同高度となり、タイム差で楢崎智亜が初優勝を果たした。

クライミングジムの普及や指導体制の充実に伴い、全国各地から強い選手が続々と現れていることを例年以上に強く感じた大会であった。この大会の成績による一次選考で男子７名女子６名が世界ユース選手権リード日本代表に選出されたが、イタリア・アルコでの世界ユース選手権では一人でも多くの選手が実力を発揮して表彰台に上がることを期待したい。今回の表彰者は以下の通りである。　（文と写真　目次俊雄）

表彰者一覧

男子ジュニア		女子ジュニア	
１位	楢崎　智亜（栃木）	１位	野中　生萌（東京）
２位	波田　悠貴（埼玉）	２位	義村　　萌（三重）
３位	島谷　尚季（千葉）	３位	竹内　彩佳（千葉）
男子ユースＡ		**女子ユースＡ**	
１位	緒方　良行（福岡）	１位	田嶋あいか（三重）
２位	楢崎　明智（栃木）	２位	中村祐香梨（静岡）
３位	原田　　海（大阪）	３位	錦織　美里（広島）
男子ユースＢ		**女子ユースＢ**	
１位	田嶋　瑞貴（三重）	１位	曽我　綾乃（埼玉）
２位	小西　　桂（神奈川）	２位	小島　果琳（岐阜）
３位	土肥　圭太（神奈川）	３位	樋口　結花（佐賀）
男子アンダーユースＢ		**女子アンダーユースＢ**	
１位	西田　秀聖（奈良）	１位	伊藤ふたば（岩手）
２位	鶴　　隼斗（埼玉）	２位	森　　秋彩（茨城）
３位	大政　　涼（愛媛）	３位	島田　祐生（大阪）

韓国、江原道での山岳スキー競技　アジアカップ第1戦大会

韓国東部の日本海に近い江原道（High one）高級リゾートで、2月28日（土）～3月1日（日）に山岳スキー競技選手権のアジアカップ第１戦が行われた。

2018年に予定されている江原道、平昌（ピョンチャン）冬季オリンピック会場とは少し離れている場所で、立派な設備やカジノを含めた高級リゾート地で韓国人が入れる唯一のカジノがある。いろんな功罪があり、熱しやすい人たちにとっては、天国か地獄か、現地でいろんな情報を聞いた。日本も導入しようと動いているようだが、さてどうなるか。

２月28日は、バーチカル（直接登るだけ）、３月１日はインデビジュアル（本来の山岳スキー競技）が行われた。28日午後４時、ハイ-ワンーリゾート、スキーピステを利用し約1.6キロの距離を各カテゴリー100名近くがバーチカル競技に参加。日本選手では三浦祐司が中国、ロシアに続き３位に入った

３月１日は、インデビジュアルが行われた。朝７時にやはり、スキー場をスタートして約20数キロの距離で争われた。前夜からのサラサラの新雪2～3センチで、

日本選手団

レースとしては大変良いコンデションでインデビジュアルが行われた。標高1,400mの白雲山の稜線も利用したりで、ある程度山岳スキー競技らしかった。

レースはゴール直前の100mまで中国、ロシア、日本の三つ巴の激しい戦いで最後はロシアの選手が抜け出し１位になり、三浦選手は２位に輝いた。しかし、ロシアは（ヨーロッパの組織なので）正式参加でなかったためゲストで、アジアカップの優勝者は三浦選手となった。三浦選手はこれで韓国大会7連勝となり50代の年齢を考えると驚異的な努力のたまものだと言える。各国選手から称賛の声が数多く上がったのも無理もない。

今回はイランからの参加が４名おり、６ヶ国での競技となった。韓国の努力もあって、国際競技に広がりつつあることを実感できた大会だった。参加選手は地元韓国、中国、ロシア（カムチャッカの選手）、イラン、イタリア、日本。その他2018年ピョンチャン冬季オリンピックの話などで話題が多い大会であった。

日本大会（アジアカップ第２戦）での再会を期して各国選手団と別れた。　（記　佐伯尚幸）

インデビジュアルスタート

モンゴルへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい

オトゴンテンゲル登山、フラワーハイキング等、乗馬だけでない魅力がモンゴルにはあります。ご友人同士、ご夫婦、山岳会の合宿等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。是非お気軽にご相談下さい。

株式会社
風の旅行社名古屋
愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者　古谷 朋之
〒460-0008　名古屋市中区栄3-7-12　サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321　FAX 052-228-6232　e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

ポーランドの最高峰に登頂し､豊かな歴史･文化にも触れる

ポーランド最高峰リシィ山登頂と
世界遺産の古都クラクフ 8日間

発着地 東京
出発日 8/24（月）・9/7（月）
旅行代金 ¥466,000
※燃油サーチャージ（2015年4月25日現在：目安約28,000円）が別途必要です。

旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階　☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

新連載

「山の日」制定記念

―ふるさとの山に登ろう―

茨城県・神峰山（かみねさん、598m）

神峰山は標高598mの低山ですが、阿武隈山地の南端に位置し日立市を取り巻く山並の主峰的存在で、ＪＲ常磐線や常磐道からのアクセスが良いことから首都圏の日帰りハイキングコースとして県外にも広く親しまれています。

山頂から太平洋に朝日が立ち上る様が日立の地名の由来になったと言われています。隣に位置する、花の百名山「高鈴山」を含めて一帯は県立高鈴自然公園に指定されていますが、2008（平成20）年この山域から日本最古の地層（約５億年前のカンブリア紀）が発見され、2011（平成23）年この地が茨城県北ジオパークに認定されました。

「神峰山（598ｍ）」、「高鈴山（623ｍ）」を中心に信仰の山「御岩山（530ｍ、諸説あり）」、「羽黒山（はねぐろさん）（491ｍ）」等のピークと御岩神社、日鉱記念館、奥日立きららの里、かみね公園、小木津山自然公園、助川市民の森等の自然公園や宿泊施設等も整っており、これらを組み合わせてファミリーハイキングから健脚コースまで年代や目的に応じて幅広く楽しむことができます。コースはよく整備されており、主要コースには指導標が設置されているほか、コースの出発点となる自然公園等にはトイレや宿泊施設も完備されています。

ハイキングコースの起点はファミリー向けや半日コースは、ＪＲ常磐線日立駅からバスで約30分「きららの里前」下車、すぐ前の奥日立きららの里（車の方は常磐道日立北ICから約10分）に入場（有料）し、ここを起点に神峰山や高鈴山を往復するのがお勧め（いずれも片道約１時間）です。下山後きららの里にもどってから、地元のそば粉を使った手打ちそばやバーベキューなども楽しむことができます。

一般向けの一日コースとしては太平洋沿いの小木津山自然公園、かみね公園、助川市民の森などからの往復（約16～20km）や、きららの里から出発し、神峰山又は高鈴山のピークを踏んで太平洋を望みながら前述の公園に下山するのもお勧めです。

健脚向きには「日立アルプス縦走」と呼ばれている、阿武隈山地最南端の「風神山（かぜのかみやま）（242ｍ）」から高鈴山・神峰山を経て「石尊山（386ｍ）」までの約30ｋｍのコースもあります。（起点となるJR大甕駅から終点のＪＲ十王駅まで約40km）

神峰山と大煙突

ところで、この山域はかって四大銅山の一つ、旧日立鉱山が操業していた場所であり、ハイキングコース沿いに煙害克服の象徴とも言える大煙突を始めとした産業遺跡や、裸になった山肌を回復した植生などをみることができます。明治後半、日立鉱山の近代化が図られていく過程で、銅の精錬の際に排出される煙の中に含まれる亜硫酸ガスによって、農作物や山の木々が枯れるという公害問題が深刻化しました。今から約百年前の1914（大正３）年当時世界一（155.7ｍ）の高さの大煙突を構築し、また神峰山頂など数か所に気象観測所を設け風向きにより操業を調節することで、これを克服しました。

さらに、荒廃した山肌の早期回復のためオオシマザクラ、オオバヤシャブシ、ヒサカキなど耐煙性に優れた樹種を研究し職員と住民が協力した山林造成活動が行われました。

今、ハイキングコース沿いに、大煙突（1993年上部が倒壊し54ｍになったが現役で稼働中）や気象観測所など産業遺跡やオオシマザクラ群落、ヒサカキのトンネル等をみることができます。特に４月中旬、神峰山頂から展望する大煙突と周囲一面に開花したオオシマザクラの群落は見事です。また日鉱記念館には鉱山の歴史に加え鉱山機械や大煙突、植樹等公害克服の歴史が展示されています（入場無料）。

茨城県山岳連盟ではこの山域で毎年５月に御岩山の岩場で岩登り講習会を、４月中旬にハイキングコース清掃登山を行っています。清掃登山では茨城県北ジオパーク推進協議会と連携し満開のオオシマザクラや公害克服の歴史、日本最古の地層（５億年前のカンブリア紀）などの自然解説を行い、参加された地域の方に語り継ぐ努力を行っています。

（記　茨城県山岳連盟　田上正敏）

第78回 Mountain World

ネパール大地震　死者8000人を超える

池田常道

4月25日正午前、中部ネパールのゴルカ地区を震源とするマグニチュードM7.8の大地震が発生、首都カトマンズをはじめ震源に近いランタン谷や山間の村を中心に大きな被害が出た。影響は、国境を接するインド北西部やチベット自治区、バングラデシュにも及び、これら周辺地域を含めた死者の数は5月9日現在8000人を超え、倒壊した建物は50万棟以上になっている。

道路が寸断されて孤立した地域が多いため、救援物資が山間まで届かず、300万人が緊急の食糧援助を必要としている。カトマンズでは家を失った2万4000人がテント生活を余儀なくされ、食糧不足や衛生状態の悪化から約40万人が地方や国外へ脱出したという。

ネパール政府は3日、遺族に対して1人4万ﾙﾋﾟ（約4万7000円）の見舞金を支給すると発表した。今後3か月で復旧作業などに必要とされる4億1500万ﾄﾞﾙ（約500億円）は2日時点でまだ2％しか集まっておらず、国連常駐調整官事務所は各国に支援要請を続けている。

地震の影響は当然山岳地帯にも及んだ。地震発生時エヴェレストＢＣ（5350m）には約1000人が滞在していたが、当日午後にプモリとリントレンのコル（6150m）付近にあったセラックが崩壊し、誘発された雪崩が標高差800mを流れ下ってＢＣ上部に張られていたテント群を襲い、不明２人を含む19人が犠牲になった。ネパール山岳協会などによる犠牲者の内訳は以下のとおり（ＨＡＰは高所ポーター、ＫＳはキッチンスタッフ）。

≪ドリーマーズ・デスティネーション・ローツェ隊≫
ゲ・チェンファン隊長（43、中国）、ヤマガタ・ヒロシ（56、日本、漢字表記不明）

≪中国女性エヴェレスト隊≫
レヌ・フォーテダー（49、オーストラリア）、ラクパ・ツィリン・シェルパ（33、HAP）

≪ステップアップキャンペーン・エヴェレスト隊≫
シヴァ・クマール・シェルパ（25、KS）

≪ジャッジドグローブ・エヴェレスト隊≫
ダニエル・フレディンバーグ（33、アメリカ）

≪マディソン・エヴェレスト/ローツェ隊≫
マリサ・ジラウォング（28、BCドクター）

≪アドヴェンチャー・コンサルタンツ隊≫
ダワ・ツェリン・シェルパ（33、HAP）、ペマ・イシ・シェルパ（25、HAP）、チミ・ダワ・シェルパ（27、HAP）、ペンバ・シェルパ（19、KS）、マイラ・ライ（41、KS）

≪ティム・モーズデール・エヴェレスト隊≫
テンジン・ボーテ（HAP）、パサン・テンバ・シェルパ（KS）、クリシュナ・クマール・ライ（KS）

≪トレッカー≫
ヴィン・B・トゥロン（ベトナム出身のアメリカ人）

≪TETフィルムズ＆フォトグラフィー≫
トム・タプリン（61、アメリカ）
他に不明２名。

＊

１年前の雪崩事故に続く悲劇に大半の公募隊が撤収したが、登山続行を望む登山者は少なからず残っており、シェルパたちも登山再開に意欲的だという。ネ政府も、アイスフォールドクターたちは数日でルートを修復すると述べ、５月第３週か第４週には登頂可能だとしている。一方チベット側では、中国チベット登山協会が、雪崩や落石の危険が増大しているとみて、すべてのＢＣ撤収を要請した。ただし、カトマンズ＝コダリ道路は通行不能となり、登山隊はラサ／北京経由での帰国を余儀なくされた。

（写真説明）
上／南面BCからのプモリ（左）、矢印が地震で崩壊したコルのセラック。
下／赤い矢印が雪崩の通路。右手のアイスフォールとは全く別の方角から襲ったことがわかる。

すぐそこにある遭難事故

元警視庁山岳救助隊　金（こん）　邦夫

今年の２月１日、新聞の朝刊に「奥多摩の本仁田山で男性登山者２人が死亡した」との記事が載った。「１月28日に、本仁田山へ一緒に登山に出かけた男性２人が帰宅せず、１月31日、捜索していた青梅署山岳救助隊員が、岩場から転落し死亡している２人を発見し収容した。」というものである。

１月30日、東京地方は天気予報どおり朝から雪が降った。奥多摩の山も薄っすら雪化粧したが、午後には止み雨となった。

都内に住む男性Ｋさん（70歳）の家族が奥多摩交番の山岳救助隊に捜索願を出した。Ｋさんは都内の「Ｓ山の会」に所属し、同じ会の男性会員Ｍさん（60歳）と２人で、２日前の28日に本仁田山へ日帰り予定で登山に出かけたが、今日になっても戻らないというものであった。

２人の登山経験は豊富で、Ｋさんは以前にも２回ほど本仁田山へ登っている。一度は奥多摩駅からすぐ裏山に屹立する、岩登りのゲレンデとして古くから親しまれている氷川屏風岩の脇を経由し、ゴンザス尾根に出て本仁田山に登り、下りはゴンザス尾根から花折戸尾根に入って鳩ノ巣駅に下山している。

山の仲間によると、今回は鳩ノ巣駅から本仁田山に登り、奥多摩駅に下山するという逆コースをたどると言っていたという。

午後になって携帯電話のＧＰＳによる位置測定の結果が出た。電波は長畑の氷川中学校近くに立つアンテナが受信しており、アンテナから半径3㌔の区域だという。半径３㌔といえば本仁田山頂までの南側が全部含まれるというアバウトなものであった。

31日早朝から捜索が開始された。山岳救助隊員９名が３個班に分かれて、まだ雪の残っている本仁田山南側の捜索に入った。

午後１時半ころ、奥多摩駅のすぐ北側にある、氷川屏風岩付近を捜索していた３隊員が、屏風岩から僅かに下った西側斜面の岩場の下で、転落して死亡したと思われる２人を発見した。

西側斜面の18㍍ほどの岩場の上の立木に、ダブルにして掛けたスリングが5㍍ほど垂れ下がっていた。この岩場を下りようとしたのだろう、２人は岩場下の急斜面をさらに滑り落ち、岩場の上の立木から約40㍍下で止まっていた。Ｍさんが上で、その8㍍ほど下にＫさんが倒れていた。

現場からは真下に奥多摩駅が見え、工場の音さえ聞こえる駅から直線距離にして500㍍ほどの所だ。

刑事課員の実況検分の後、２人は山岳救助隊員によって収容されたが、このコースは東京都公園協会の、本仁田山に登る一般登山道としては指定されていない。踏みあとはあるものの言わばバリエーションルートと言えるだろう。そのバリエーションルートからも外れて岩場に出てしまった。すぐ下に町が見える。迷ったことを知りながら、ここさえ下りればという思いが働いたのだろう。あと15分ほどで下山できたという、まことに痛ましい遭難死亡事故であった。

なぜ２人とも転落したのだろう。ザイルでも結んでいなければ考えられないような事故である。推理として成り立つのは、ダブルにして垂らした５㍍のスリングに掴まり、１人が途中まで下りる。次いで２人目が下りようとしたが何らかのアクシデントで転落。そして下の人を巻き込んで２人一緒に落ちた。こうとでも考えなければ説明がつかない。しかしこれも単なる推理に過ぎないのだが。２人とも死因は脳挫傷であった。

この遭難事故でさらに心痛むのは、次のような事情もある。２人の所属していた「Ｓ山の会」は１年ほど前、創立20周年を迎えた。その記念祝賀会に私も招かれ、「奥多摩山岳救助の現場から」と題し、奥多摩における山岳事故の傾向とその対策を話させて戴いた。道迷いに起因する事故が多いことも話した。２人もその場におられたことであろうが、何とも私の力量不足も思い知らされた事故でもあった。２人のご冥福をお祈りしたい。合掌。

私ごとで恐縮ではあるが、この事故も含め40件ほどの遭難事故事例をまとめ、東京新聞出版局から「すぐそこにある遭難事故」のタイトルで、５月後半に出版させて頂くことになった。興味のある方はご笑覧下さい。

平成26年度　大山
氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成27年２月14日（土）～15日（日）に大山で標記研修会・講習会が行われた。

今回は研修８名、Ａ級主任検定４名、上級指導員養成講習３名、講師６名、鳥取県スタッフ３名の計24名での開催となった。参加者は山陰地方以外にも、関西、四国、関東からも広く参加していただいた。

今回は現地で活躍されている、鳥取山協の渡辺氏、広島岳連の岡谷氏にも講師として加わっていただき、昨年に引き続き改良型 スタンディングアックスビレー等の検証を実施した。

以下に参加者の代表の感想を掲載します。

（記：指導委員会　野村善弥）

氷雪技術研修会受講感想文

鳥取県　長瀬　等

私は１年半前に初めて大山に登り、その美しさと心地良さに魅了されました。それ以来､熱狂的な大山ファンになり、他のルートにも足を伸ばして、山歩きと共に自然の織り成す見事な景観、稜線に咲き誇る植物など、大自然からの贈物との出会いを楽しんでいます。

自然豊かな大山は、沢山の喜びを与えてくれます。今の季節、白銀に彩られた大山には街中の生活では出会うことのできない美しい樹氷や、静寂に満ちた自分だけの空間があります。私のお気に入りは、五合目周辺の樹林帯を美しく輝かせる見事な樹氷です。冬山大山は、まさに大自然の宝石箱です。

この素晴らしい大山にもっと長く登り続けたい。その為に私はどうあるべきかを考え、たどり着いたのは「自分が事故を起こさない技術を身につけ、それを必要としている人の為に役立ちたい。」との思いでした。

沢山の出会いを繰り返す中で、地元の山岳会（岳獅会）に入会させて頂いたことがご縁で、本研修会の開催を知りました。ロープの結び方も分からない状況でしたが、この素晴らしい機会をチャンスと捉え、本研修に参加させて頂きました。

座学研修で教えて頂いた基本的なことは、登山者の安全を確保する為に自らが更に高い技術を習得することの必要性です。その心構えとして、常に謙虚に自らを高めての行く姿勢、技術の中に存在する本質を自分のものにして行く努力の積み重ねなど、日常の考え方が重要であると自分なりに感じました。

実技研修で指導して頂いた、正しいピッケルの使い方、装備品の注意点と装着、雪上歩行と雪崩を避けるルートの選定、スタンディングアックスビレーの確保など、私の大山登山にそのまま活かせる技術だと思います。

はじめに模範実技と解説を行い、個人実技では個々の技術レベルに応じた丁寧な指導して頂けたことは、私にとって大変助かりました。実技研修の成果が大きな自信となりました。

積雪期の大山登山であっても、天候の良い日に夏山登山道だけを単に往復するだけなら、今回の氷雪技術研修は必要ないかもしれませんが、冬山大山の魅力に一歩踏み込む際には、欠かすことの出来ない重要な技術として役立つと確信しています。

今回の研修の受講はゴールではなく、次の登山に向けての新たなスタートだと考えます。本研修で伝えて頂いた技術を自分の手で磨き、自分の言葉に置き換えて、必要としている方に伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、本研修開催の為にご尽力頂きました日本山岳協会及び関係者の皆様、そして直接のご指導を頂きました堤先生へ、この場をお借りいたしまして、心よりお礼申し上げます。

＊尚、ここに参加いただいた東京都岳連の木下 佳哉子さんが、5月３日前穂高岳で落石事故にてお亡くなりになりました、心からご冥福をお祈りいたします。

トピックス

池田常道さんの出版を祝う会

本誌連載「Mountain World」を執筆されている池田常道さんが、山と渓谷社から『ヤマケイ新書 現代ヒマラヤ登攀史』を出版された。この出版を記念して、川崎深雪、神崎忠男、国井治、坂下直枝、重廣恒夫、須田義信、廣川建司、古野淳、八木原圀明、山森欣一の各氏が発起人となって、４月22日（水）にアルカディア市ヶ谷で出版を祝う会が催された。

当日は、1956年にマナスル初登頂された日下田實氏をはじめ世界三大高峰無酸素登頂者の川村晴一氏など80年代から90年代にかけてヒマラヤの高峰登山を牽引された歴代のヒマラヤニストたち60名が一同に会し、ヒマラヤ談義で盛り上がった。

（記　尾形好雄）

新刊図書紹介

【ヤマケイ新書】

『現代ヒマラヤ登攀史　8000メートル峰の歴史と未来』

池田常道　著

著者は、1972年から『岩と雪』の編集に携わり、77年から95年の休刊に至るまで編集長を務められた。

83年に『岩と雪』誌上でエベレスト初登頂30周年特集を組んだのを契機に、シシャパンマ初登頂（64年）以降の8000m峰14座の登山記録を纏め、その登攀史を『岩と雪』（98号～112号）に連載した。それから30年の星霜を重ね、その間に膨大な登山記録が成された。当時の連載記事に大幅に加筆訂正したのが本書である。

人類初の8000m峰、アンナプルナ登頂から65年。ヒマラヤ登山は如何に変遷して、何処へ向かうのか。探検時代の歴史から、初登頂のドラマ、そしてバリエーション、無酸素、アルパインスタイル、冬季登頂へと8000m峰登攀史の集大成。ヒマラヤニストの必読書である。

新書版、288頁、定価880円＋税、2015年3月21日、発売元：山と渓谷社（03－6837－5018）

平成27年度国際委員総会及び第34回海外登山遭難対策研究会開催

1．期　日　平成27年６月13日（土）～14日（日）

2．会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 306号室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町３－１
TEL：03-3469-2525　　http://nyc.niye.go.jp/

3．参加費　12,960円（夕食を兼ねた懇親会、一泊、朝食込）
※14日日帰りの参加費は、2,160円になります。
（但し、学生と10代の若者は540円、20代と30代は1080円）
※懇親会の参加費は、3,500円

4．日　程

○**6月13日（土）**　18:00　受付開始　　18:20　開会・オリエンテーション
18:30　「国際委員総会」　　20:00　夕食・懇親会

○**6月14日（日）**　7:00　朝食

「海外登山遭難対策研究会」

8:45　講演「高所順応および高所障害の対処法とその最新知見」　講師　野口いづみ氏
9:45　講演「グレートヒマラヤトレイル」（予定）　講師　根本　秀嗣氏
10:45　講演「ヒマラヤ・カラコルムの山岳救助の最新事情と山岳保険」講師　古野　淳氏
11:35　閉会・会場片付け

5．申込み　６月５日（金）までに参加費を添えて日山協事務局へお申し込み下さい。

2015年春・ＵＩＡＡ理事会報告

1. 出席者　神崎忠男会長、小野寺斉（記録）
2. 日　程　３月25日～ 30日
（25日夕方マドリッド着～ 29日夕方同発）
3. 場　所　スペイン：サラゴサ
（マドリッドから特急で１時間15分）
4. 主　管　FEDME
（The Spanish Climbing and Mountaineering Federation）

今回は、ＣＩＭＡ2015（International Mountain Congress）が元々この期間内に開催されることになっており、それに合わせての理事会の開催であった。会場のサラゴサ大学は16世紀の設立である。サラゴサはマドリッドとバルセロナのほぼ中間に位置し歴史のある都市である。画家Goyaの出生地としても有名である。アラゴン州に所属、アラゴン山岳連盟もＦＥＤＭＥの一員として活動している。京都市とは姉妹都市になっている。

26日午前マドリッドからサラゴサへ、駅でKAFのPae女史に会う。昼前にホテルに到着、昼食後サラゴサ大学に向かう。歩いて15分程度の距離。既にＣＩＭＡ2015は始まっており、登録後そのまま残り、理事会の非公式会議に臨む。報告の都合上この非公式会議と翌日の公式会議を合わせて記述する。主な議題のみの報告である。公式会議は27日である。

5. 理事会

18人の理事のうち15人が出席、定足数は９人であり会議成立となる。理事会で決定した方針は次の総会で諮られてから正式決定となる。

⑴定款の変更。ＵＩＡＡ(フランス語の略）は英語名をInternational Mountaineering & Climbing Federationとしている。これをInternational Climbing & Mountaineering Federationに変更したいという提案がなされた。確かにオリンピックを意識したクライミング志向が高まっている。ＩＦＳＣへの対抗心もある感じである。さらにFederationかAssociationか、と言う議論になり、カナダのPeterからAssociationはFederationを抱合する、という発言もあり、最終的にはFederationをAssociationに変更してソウルの総会に諮ることになる。

⑵日本で今取り組もうとしているT.Std（トレーニングスタンダード）は登山委員会に所属している１つのPanel（WG/作業部会とは違うが内部委員会）である。これを登山委員会から切り離し独立した委員会にしよう、という提案がなされた。今の登山委員会委員長

のPierre HumbletがＰＰＴを使い、如何に登山委員会が積極的に活動しているかについて顔を真っ赤にして説明した。Petzlがスポンサーになっているがこれは T.Stdに対してである。日本の青山氏の遭対データの収集など活動も積極的に行っていることをアピールした。これに対してスイスのFrankは「登山委員会は何もしていないだろう、（青山氏の）データ解析などは本当に山岳としての的を得ているのか」と強い発言。T.Stdの責任者のSteve longも同席しており、議長から「お前はどうなんだ」と聞かれていたが、それには直接答えないで別の発言をしていた。つまりT.Stdがなくなると登山委員会の活動は半分以下になる、というのもPierreも暗に認めているように事実である。結果的に賛否は結論の延期となった。８対４であった。日本は延期に賛成したが、分離傾向は変わらないと思われる。Pierreはその後皆の前に顔を出したのは最後の日の朝だけであった。

⑶アクセス委員会はエクスペディション委員会をも取り込んでいるが、これも目立った活動はしていない、とのことで登山委員会に入れてしまおう、という提案があった。採決に先立ち、日本の意見を述べた。「アクセスという言葉自体は日本語にはない。イメージとしては自然保護よりも幅広く感じる」と発言した。韓国も同様との事。この提案も結果的には後日再討論となった。

⑷ＩＳＦ（International Sky running Federation）をＵＩＡＡのＵＮＩＴにする、という提案があった。提案というより既に契約することはほぼ決まっていたようだ。ＵＮＩＴとは、簡単に言うと傘下団体ということになる。ＩＳＦの会長をＵＩＡＡの副会長に据える、という条件もあった。スイス、フランスもいろんな問題点を指摘していたが、結局は賛成に回った。本来的にFrankはFrits支持である。日本はドイツ、イギリスと共に反対、また事務局長のHeleneも反対に回り、反対票は４票、他は賛成で可決された。これによりＩＳＦはＵＩＡＡの医事委員会やアンチドーピング委員会とも繋がりが出来、ＩＳＦがＩＯＣアンチドーピング

補助を受けることについても支持する方針である。

⑸Rock Climbing WGを作ることの提案

登山委員会の中に作りたいと副会長のPeter Farkas、イギリスのAnne、アメリカのMarkなどが中心となって提案。フランスのジョージは当然ツアーを行うようになると思うが、すでに行っている既存の団体の日程を邪魔しないように、との注文。他は特に反対意見もでなかった。

⑹ヨーロッパ連合について

急に出てきた話ではなく、昨年くらいから徐々に話が持ち上がってきたようだ。目的はヨーロッパの加盟団体をよりアクティブにすること、とのこと。南米のＵＰＡＭＥやアジアのＵＡＡＡみたいなもの。会長レポートでは昨年の広島での会議の事が賞賛の形で紹介されていた。加盟団体が集まって何やら話し合っていた。

⑺ユース委員会について

今までうまくいっていたが、このところ問題が出てきた。例えばアゼルバイジャンからは予定していたイベントを関連政府が許可しないのでＵＩＡＡイベントから外してくれるように言ってきたりしており、委員長に確認したいとのこと。遠方の委員長からSkype通信を何度か試みたが接続してもすぐ切れてしまうので詳細確認は持ちこしとなった。

⑻アイスクライミング

ソチオリンピックへのデモ参加を機にオリンピック種目への期待をさらに高めているように見える。各参加者にアイスクライミングに対する取り組みについて確認した。日本は特に重要な国であり、積極的になってほしいとのこと。地理的な問題や、選手層が薄くなかなかヨーロッパツアーには参加出来にくい旨を話した。他のヨーロッパの国々でもイタリアなどは発言としてはあまり積極的ではなかった。

⑼会費がなかなか払えない国に対して

支払う気がない国は別として、参加して活動したいがなかなか支払えない国に対しては現行規定を一部緩めて猶予期間をおいての支払いを認めるようにしたい、何年か前から続いている協力ファンドとは別である。未払い国は2013,2014年度で７か国、アジアではインドのHMI（Himalayan Mountaineering Institute）、またキプロスは協力ファンド対象国となる。

⑽戦略プラン

７つの戦略リストを上げた。主なものとしてＵＩＡＡのイメージのアップ、名前の浸透、そしてオフィスと各加盟団体や委員会との連絡を密に取りたい事などが挙げられた。どちらにしても根底にはアイスクライミングを中心にオリンピック参加という目標がある、と思われる。

⑾ＣＩＭＡ2015講演

前述の通り、ＵＩＡＡ理事会はこのＣＩＭＡ2015に日程を合わせたものである。今回はＣＩＭＡ2015ではＵＩＡＡ関係でも多くの方が講演した。最近の登山の傾向から、自然保護、組織の運営等多岐に亘るものであった。小野寺もＵＩＡＡアクセス委員会委員長のJuan Martineから直接プレゼンを依頼された。内容的には「Singular peaks & their Management problem」とのことで具体的には富士山について話をしてくれ、というものであった。考えて引き受けたが、内容的には江戸時代を中心にした富士山の信仰、芸術、最近の登山者の多さとオーバーユースとその対策、世界文化遺産、富士山憲章、冬富士、遭難について、とＰＰＴを使って作成した。他のプレゼン者はネパールのアンツェリン氏がエベレスト、フランスのジョージ氏がモンブラン、スペインのフランシスコ氏がスペインの国立公園について、であり、15分間の持ち時間でプレゼンし、参加者からの質問を受け付けた。これに先立ち、日本出発直前に別途依頼があり、日程を違えてアンツェリン氏と30分ずつ同一内容でプレゼンした。

以上

NPO法人　北丹沢山岳センター
事務局　〒252−0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545−1
TEL 042-687−4011　FAX 042-687−3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ヶ岳山荘　ＴＥＬ：090−2252−3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　ＴＥＬ：042−787−2276
和田峠「峠の茶屋」　ＴＥＬ：042−687−2882
理事長・代表　杉　本　憲　昭

NPO法人　北丹沢山岳センター
事務局　〒252−0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545−1
TEL 042-687−4011　FAX 042-687−3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
○　北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
○　陣馬山トレイルレース実行委員会
○　八重山トレイルレース実行委員会
○　東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉　本　憲　昭

平成27年度4月（27年4月）
常務理事会報告

日　時　平成27年4月9日㈭
17時30分～20時50分
場　所　岸記念体育会館103号室
出席者　神﨑会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京才、瀧本、青木各常務理事、中島監事
委　任　水島常務理事（常務理事13名中12名出席）

１．議　事

⑴平成26年度３月常務理事会議事録の承認について（異議なく承認された）

⑵平成26年度理事会（第４回）議事録の承認について（異議なく承認された）

⑶役員候補者推薦委員会運営細則（案）の承認について
尾形専務理事より提案説明がなされ、監事候補者は理事候補者とは別に推薦するよう訂正され、承認された。

⑷クライミング・ルートセッター規程及び同内規の改定（案）の承認について
森下常務理事より資料に基づき説明。規程の訂正条文の文言など再度検討して次回常務理事会に諮るよう差し戻された。國松副会長から法規委員会を設けて規程全般の見直しを図るべきとの指摘があった。

⑸代表チームに関わる規程・行動規範・ユニフォーム運用内規（案）の承認について
森下常務理事よりスポーツクライミング日本代表選手のユニフォームのスポンサー契約に伴い、日本代表チームに関わる規程（案）、日本代表チームの行動規範（案）、代表チームのユニフォーム等運用内規（案）について説明。規程及び内規記載の日本代表選手をスポーツクライミング日本代表選手と訂正することで、承認された。

⑹2015年代表選手の承認について
森下常務理事より資料に基づき以下の代表選手及び推薦選手の承認が諮られ、異議なく承認された。

・世界ユース選手権大会代表選手（男子＝ジュニア：楢崎智亜、波田悠貴、島谷尚季、ユースA：緒方良行、ユースB：田嶋瑞貴、小西桂、土肥圭太、女子＝ジュニア：野中生萌、義村萌、ユースA：田嶋あいか、中村祐香梨、ユースB：曽我綾乃、小島果琳）

・ボルダリングB代表（女子＝田嶋あいか、戸田萌希、尾上彩、小林由佳、加島智子、大田理裟、渡辺沙亜里、三浦絵里菜、大場美和、細野かおり、男子＝渡部桂太、山内誠、中野稔、沼尻拓磨、緒方良行、波田悠貴、樋口純裕、一宮大介、豊田将史、清水淳

・オリンピック有望選手の推薦（田嶋あいか、野中生萌、楢崎智亜）

⑺平成27年度生涯スポーツ功労者候補者の推薦について
尾形専務理事より資料に基づき説明。候補者の選考基準のハードルが高く本会では該当者なし、ということで承認された。

⑻報告事項

ア　会計月次報告
小野寺常務理事より資料に基づき平成26年度収支決算（暫定）が報告された。中島監事より、確定していない補助金については、平成25年度実績を計上する合理的見積もりで処理してはどうか、消費税、減価消却、賞与及び退職給与の引当の計上、などが指摘された。

イ　和歌山国体準備状況について
京才常務理事より和歌山国体の準備状況について報告された。

ウ　全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015の大会要項について
森下常務理事より全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015の大会要項について説明された。

エ　クライミング日本ユース選手権2015ミレーカップ報告
森下常務理事よりクライミング日本ユース選手権大会について終了報告があり、募集方法の検討について言及された。

オ　ＩＦＳＣ総会報告
神﨑会長より資料に基づきスイス・バーデンで開催された総会の報告があった。

カ　ＵＩＡＡ理事会報告
小野寺常務理事よりスペイン・サラゴサで開催された理事会の報告があった。

キ　山岳共済会運営委員会規程について
尾形専務理事より３月の平成26年度理事会（第４回）で提案された山岳共済会の運営について次回常務理事会までに検討していただきたい旨、要望された。

ク　創立60周年記念事業募金について
尾形専務理事より資料に基づき募金活動の説明があった。

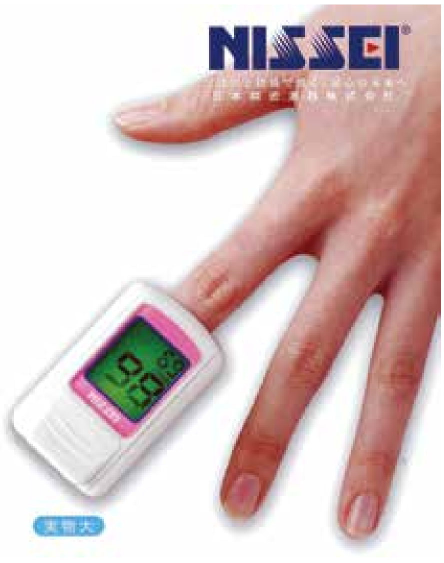
ケ　ヒトココのレンタル・サービスについて
尾形専務理事より新年度から山岳共済会会員向けにレンタル・サービスを開始することが報告された。

コ　東日本大震災復興支援に関わる27年度諸事業における冠等の付与に関する協力について
日体協より今年度も諸事業に「東日本大震災復興支援─とどけよう　スポー

全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015
おめでとうございます。

弊社ではパルスオキシメータ（経皮的動脈血酸素飽和度計）“パルスフィット BO-600”
を**格安**の値段で提供させて頂いております。ご希望の方は、下記までお申込み下さい。

1.8 万円 !!
ポッキリ



田中産業株式会社
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-16-3　電話：03-3814-7181

ツの力を東北へ！」の冠名称・キャッチフレーズの付与に関する協力要請があった。

サ　スティーブ・ロングUIAA登山委員とのT・Std.勉強会報告
西内常務理事よりUIAA登山委員とのトレーニング・スタンダードの意見交換会の報告があった。

2．後援、協賛等の依頼について

(1)「平成27年度山の知識検定（第5回）」の後援名義使用（一般社団法人 日本山岳検定協会主催）（異議なく承認された。）
(2)「第7回ジャパンユースカップ」の後援名義使用（NPO法人日本フリークライミング協会主催）（異議なく承認された。）
(3)「第21回クライミング・コンペ・オール神奈川」の後援名義使用（神奈川県山岳連盟主催）（異議なく承認された。）
(4)「第1回ボルダリング神奈川カップ」の後援名義使用（神奈川県山岳連盟主催）（異議なく承認された。）

3．日誌（2月26日～4月8日）

(1)山岳団体自然環境連絡会
2月26日㈭　於：労山事務所
徳永・松隈副委員長
(2)山岳スキーアジア選手権大会・韓国2015　2月28日㈯～3月1日㈰
於：韓国　佐伯団長ほか3名
(3)九州ブロック競技研修会
2月28日㈯～3月1日㈫　於：大分
松崎・佐原常任委員
(4)全日本クライミングユース日本選手権ボルダリング競技大会実行委員会
3月1日㈰　於：鳥取県倉吉市
西原委員長
(5)平成26年度第2回JOC－NF強化関係連絡・連携会議　3月3日㈫
於：岸記念体育会館　小野寺常務理事、中川事務局員
(6)監事会　3月3日㈫　於：岸記念体育会館　神崎会長、内藤・岡本・中畠監事、尾形専務理事
(7)大学スポーツクライミング個人選手権
3月6日㈮～7日㈯　於：明治大学和泉キャンパス　神崎会長
(8)北海道ブロック競技研修会
3月7日㈯～8日㈰　於：札幌市
寺内・佐藤常任委員
(9)第53回海外登山技術研究会
3月7日㈯～8日㈰　於：国立オリンピック記念青少年総合センター
神崎会長、澤田委員長ほか
(10)平成26年度理事会（第4回）
3月8日㈰　於：岸記念体育会館
神崎会長ほか理事21名、監事3名
(11)平成26年度JOC総務委員会第2回総会　3月12日㈭　於：岸記念体育会館　尾形専務理事
(12)モリパーク・アウトドアヴィレッジ オープニングセレモニー　3月13日㈮　於:昭島市モリパーク・アウトドアヴィレッジ　尾形専務理事、森下常務理事
(13)IFSC総会　3月14日㈯
於：スイス・バーデン　神崎会長、小日向副委員長
(14)中国地区山岳連盟連絡協議会
3月14日㈯～15日㈰　於：鳥取県日吉津村　國松副会長
(15)東海ブロック競技研修会
3月14日㈯～15日㈰　於：三重
滝内・目次常任委員
(16)日体協加盟団体評議員連合会総会
3月17日㈫　於：岸記念体育会館
尾形専務理事
(17)第6回火山情報の提供に関する検討会
3月18日㈬　於：気象庁
尾形専務理事
(18)スポーツ安全協会評議員会　3月18日㈬　於：東海大学校友会館　神崎会長
(19)第4回火山防災対策推進WG　3月19日㈭　於：中央合同庁舎8号館
尾形専務理事
(20)パキスタン・ナショナルデー・レセプション　3月23日㈪　於:ホテルニューオータニ東京　尾形専務理事
(21)全国「山の日」フォーラム実行委員会
3月24日㈫　於：経済産業省別館
尾形専務理事
(22)平成26年度第3回JOC－NF強化関係連絡・連携会議　3月24日㈫
於:シダックスホール　小野寺常務理事、中川事務局員
(23)全国「山の日」協議会運営委員会
3月24日㈫　於：日本山岳ガイド協会事務局　尾形専務理事
(24)第17回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式　3月25日㈬　於：グランドプリンスホテル新高輪　尾形専務理事
(25)UIAA理事会　3月25日㈬～30日㈪　於：スペイン
神崎会長、小野寺常務理事
(26)なすかし雪遊び隊2015　3月27日㈮～28日㈯　於：国立那須甲子青少年自然の家　本木顧問、西内・仙石・青木常務理事
(27)ユース日本選手権「ミレーカップ」大会
3月28日㈯～29日㈰　於：千葉県印西市松山下公園総合体育館　八木原副会長、森下常務理事、西原・山本・北山各委員長
(28)全国「山の日」フォーラム　3月28日㈯～29日㈰　於：東京国際フォーラム
尾形専務理事、中畠監事
(29)宮崎豊・国立登山研修所所長表敬挨拶に来局　4月1日㈬
(30)会長・副会長推薦委員会（第1回）
4月1日㈬　於：岸記念体育会館
粟飯原顧問、神崎会長、内藤監事、相良・北村理事、尾形専務理事
(31)第10回山岳スキー競技日本選手権大会　4月4日㈯～5日㈰　於：栂池高原　八木原副会長
(32)平成27年度競技部委員総会
4月5日㈰　於：岸記念体育会館
神崎会長、森下・京オ常務理事、西原・山本・小日向委員長
(33)スティーブ・ロングUIAA登山委員会委員とのT・Std.勉強会　4月8日㈬　於：労山事務局　小野寺・西内・瀧本常務理、蛭田・笹生委員

寄贈図書

寄贈本	株式会社童夢・鈴木出版	「安全に楽しむ！子どもの山のぼり」（全3巻）監修 田部井淳子
	本の泉社	「トゥール・デュ・モンブランを歩こう」清水昭博 著
雑誌	山と渓谷社	「山と渓谷」№ 961 2015May
	株式会社ネイチュアエンタープライズ	「岳人」№ 815 2015May
	山と渓谷社	「CLIMBING JOY」
会報	（公財）京都府体育協会	「京都府体協時報」№118
	（一財）福岡コンベディションセンター	「FCCnews」51
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第574号
	（公財）健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」№444
	（公社）日本山岳会自然保護委員会	「木の目草の芽」第115号
	Corean Alpine Club	「山」Vol .241
	富山県山岳遭難対策協議会	平成26年「山巓」
	（独）日本スポーツ振興センター国立登山研修所	「登山研修VOL.30」
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」№ 177
	（公財）全日本ボウリング協会	「ＪＢＣ news」第521号
	国立大学法人鹿屋体育大学	「邁進」第21号
	（公社）国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第69号
	（公財）埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol 268
	Ｐｅｔｚｌ	「Accidentology of MOUNTAIN SPORTS」
	（公財）大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ」2015 Spring
	（株）スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」4月号
	（公社）日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№306
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」№204号
	群馬県山岳連盟	山岳ぐんま 第104号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」№483 2015.5
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.196 2015 April
	La rivista del Club alpino italiano	「Ｍｏｎｔａｇｎｅ360」aprile 2015
	（公社）日本山岳会	「山」№839 2015年4月号
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「ＨＡＴ-Ｊ ＮＥＷＳ」№97 2015年4月20日
	植村直己冒険館	「植村直己冒険館だより」第16号
	スポーツこころのプロジェクト運営本部	「スポーツこころのプロジェクト新聞」第9号
	おいらく山岳会	「山行手帖」№ 665 '15.5
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第421号
	白河山岳会	「一里瀧」39号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第575号
資料	立山・剱岳方面遭難対策協議会事務局	山岳遭難白書「平成27年 試練と憧れ」

編集後記

4月25日、ネパールで大きな地震があり、首都カトマンズはじめ各地で甚大な被害が出た、心からお見舞い申し上げます。ネパールは登山関係者なら直接間接、大なり小なり触れたことのある国であり、人道的立場からも支援が必要で、義援金の協力をお願します。詳細は本誌掲載通り　（広報担当　水島彰治）

登山月報　第 554 号
定　価　　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　平成27年 5 月15日
発行者　東京都渋谷区神南 1−1−1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03 − 3481 − 2396
ＦＡＸ　03 − 3481 − 2395

山岳雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、"岳(やま)"を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすめです。

購読割引　送料無料　限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 **8,160円**（税込8,812円）→ 年間購読12冊 **7,480円**（税込8,078円）

1年間で680円 1冊分無料

年間購読 特典

岳人マグカップをプレゼント！

6月号 5/15発売

「岳人」6月号

【特集】巨樹をめぐる山旅

【好評連載】夢枕 獏「『神々の山嶺』創作ノート」／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

本体価格680円

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

年間購読お申し込み方法

◉ウェブサイトで http://www.gakujin.jp

◉お電話で（受付後に振込用紙をお送りします） 0120-982-682 ／ TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◉全国のモンベルストアで http://store.montbell.jp

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397

E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

U R L：http://sangakukyousai.com